

消防情報誌 まとしい 回覧

第26号 平成26年4月発行 恵庭市消防本部予防課

春の全道火災予防運動実施

4月20日～30日

この運動は、火災が発生しやすい気候となる時季を迎えるにあたり、恵庭市民の皆様には防火に関する意識を高めていただくことにより、火災の発生を防止し、火災から尊い命と貴重な財産を守ることを目的に実施します。

また、住宅用火災警報器の更なる普及と高齢者等を中心とする死傷者の発生を減少させることを目指します。

統一防火標語

消すまでは

心の警報

ONのまま



知っていますか？
火のついたままローソクの芯が飛び上がるんです！

水分が残った状態（水洗いをしたことによる）のローソク立てでローソクを使用。受皿上に残った極少量の水分の影響で、火のついたままローソクの芯が飛び上がり障子紙等の可燃物に接触し火災が発生することがあります。

※この事例は、関西で実際に発生した火災事例です。



向かって右側の水分が付着した燭台のローソクの芯が火のついたまま落下

〈使用上のご注意〉

- 必ずローソクの穴、長さにあった不燃性の燭台にまっすぐ固定してご使用ください。
- 燭台を洗淨した後は必ず乾いた布などで水分を拭き取りご使用ください。
- 燭台に水分が残ったままローソクに火を灯すと危険です。

〈ローソク箱の裏側に掲載している注意喚起文〉



家のまわりに燃えやすいものを置かない。

平成24年における総出火件数は全国で44,102件！

これは、おおよそ1日あたり120件、12分ごとに1件の火災が発生したことになります。また、出火原因の第1位は「放火」です。放火は、家の周りに燃えやすい物等を置かないようにする等私たちのちょっとした心がけで未然に防げる場合があります。今一度家の周りの点検等をしてみましょう。

防火ポスター受賞者決定!

《最優秀賞》

有明町少年火防クラブ

高野耀斗くん



第30回防火ポスター最優秀賞の作品です。市内の大型店舗や公共施設に掲示されます。とても力強く、目の生き生きとした表情が特長です。是非、実物をご覧ください。



いざというときに..



【事例1】

一般住宅において、60代女性が夜中に誤って電気ストーブの電源スイッチに触れた為、電気ストーブに掛けてあったバスローブに着火し、出火した。家人はその后就寝したが、住宅用火災警報器が鳴動し火災に気づき自ら消火し、大きな火災になりませんでした。

住宅用火災警報器の働きで大きな火災に至らなかつた例が市内では多数報告されています。

【事例2】

長屋住宅で、20代の女性が石油ストーブを点火後にストーブ付近で寝てしまった。ストーブと接触していた掛けふとんが着火して、煙式住宅用火災警報器が感知した。警報音と煙に気がついた女性が掛けふとんの火を消し、消防署に通報した。女性に怪我はありませんでした。

住宅用火災警報器

奏効事例

あなたの家の住宅用火災警報器、日ごろのチェックやお手入れでさらに安全!

問い合わせ先：恵庭市消防本部予防課 電話 33-0990

